

# 建設トップランナー倶楽部 国交省幹部と意見交換

## 担い手確保・育成の課題報告

建設トップランナー倶楽部(代表幹事・米田雅子慶應義塾大学特任教授)の幹事会は5日、国土交通省内で同省幹部との意見交換会を開いた。写真。意見交換のテーマは、地域建設産業における「担い手の確保・育成」。各企業が地域で進めている人材育成や雇用確保の現状と課題を聞き、吉田光市大臣官房建設流通政策審議官は、「われわれの問題意識と近いところにある」と共感、意見交換の成果を今後の施策に生かしていく意向を示した。

意見交換会では、国交省が建設産業活性化会議の中間報告や工程表、改正された公共工事品質確保促進法(品確法)などを解説。大臣官房技術調査課の高村裕平建設システム管理企画室長は、現在の公共事業の執行状況について「入札不調に責

任を押し付けがちだが、実態として目の前の執行は着実に進んでいる。ただし、中長期的な担い手不足は一方で深刻。二つの問題は切り分けて議論すべき」と出席者に理解を求めた。



幹事会のメンバーは、各地域が抱える担い手確保・育成をめぐる課題を報告。日本建設技術(佐賀県)の原裕社長は「新入社員が一人前になるまでの7年の期間を地域企業は待てるのか。人材育成には、安定した事業費の確保が必要だ」と馬瀬建設(岐阜県)の森本繁司代表取締役は「雇用が一度取縮された企業を評価する地域貢献になる。雇用を増やした企業を評価するシステムを充実させてほしい」と訴えた。大高建設(富山県)の大橋聡司社長は、地元ケーブルテレビで建設業の魅力を発信する番組づくりを始めたことを報告し「高校生は建設業に就職したいと思っ

ていても、保護者が反対するケースがある。こうした取り組み

には、安定した事業費の確保が必要だ」と馬瀬建設(岐阜県)の森本繁司代表取締役は「雇用が一度取縮された企業を評価する地域貢献になる。雇用を増やした企業を評価するシステムを充実させてほしい」と訴えた。

また、中村建設(静岡県)の中村仁志副社長は、現場の週休2日の導入について「日給の技能労働者の中には給与が減ることを心配する声もある」と話す。田村秀夫大臣官房技術調査課長は「工期の設定と合わせて、発注・施工の平準化と単価の上昇が必要になるだろう」と答えた。

また、中村建設(静岡県)の中村仁志副社長は、現場の週休2日の導入について「日給の技能労働者の中には給与が減ることを心配する声もある」と話す。田村秀夫大臣官房技術調査課長は「工期の設定と合わせて、発注・施工の平準化と単価の上昇が必要になるだろう」と答えた。

### 次回フォーラムの テーマ、内容協議

建設トップラン  
ナー倶楽部幹事会

建設トップランナー倶  
楽部(代表幹事・米田雅  
子慶應義塾大学特任教  
授)の幹事会が5日、都  
内で開かれた。2014



年度の事業報告・収支決  
算、15年度の事業計画・

収支予算を報告したほ  
か、15年6月30日に都内  
で開かれる第10回建  
設トップランナーフ  
ォーラムのテーマや  
内容について協議し  
た。写真。

米田代表幹事は  
「来年の6月30日に  
開催を予定している  
建設トップランナー

フォーラムは10回目とい  
う節目を迎える。地方創  
生が議論される中、地域  
建設企業の果たす役割を  
発信していく内容とした  
い」と述べた。

10回目となる建設トッ  
プランナーフォーラムの  
テーマは「地方創生の  
トプランナー・十年の  
軌跡」を提案。幹事か

らは「時宜にならな  
い」「未来の建設業の在  
り方を問うような問題提  
起もしたい」などさまざ  
まな意見が出された。

テーマ、内容は来年1月  
に開かれる第11回の準備  
会で固めることを決め  
た。

また、同トプランナ  
ーフォーラムの幹事長に

は砂子組(北海道)の砂  
修は富山県で行った  
子邦弘氏を選出、視察研  
究が報告された。